

I. はじめに

2025 年度年間句

「何事も愛をもって行いなさい。」～コリントの信徒への手紙Ⅰ 16 章 14 節～

2025 年度は、本校が進めてきたさまざまな取組が、個別の実践から学校全体の方向性へとつながり始めた一年でした。新カリキュラムの運用開始、生徒主体の学びの具体化、Step Room・SSW を軸とした支援体制の整備、国際的な交流の広がり、入試・進路・広報・財務基盤の見直しなど、それぞれの取組が学校全体の改革として見え始めました。

本校が育てたい力であるグローバルコミュニケーション、ハーツ、クリティカルシンキングを、授業、行事、支援、進路指導、学校文化の中でどのように具体化していくかについて、各分掌・学年・教科で試行と改善が進みました。一方で、取組が広がったからこそ、個人の努力に依存せず、共有された実践として整理し、継続できる形にしていく必要も明らかになりました。

本総括では、2025 年度に見えてきた成果と課題を、学力向上、支援体制、多様性と国際性、入試・進路、学校文化、財務・運営基盤の観点から整理し、2026 年度に向けた改善と接続の方向性を示します。



北星学園女子中学高等学校
校長 カレン・ベッシン
Karen. E. Bessin

・ 2025 年度達成状況一覧

事業分野	◎ 達成	○ 達成への進行度 (高)	△ 達成への進行度 (低)	× 中止	計
重点施策	6	1	0	0	7
教学	21	8	0	0	29
経営・管理	6	5	0	0	11
財務	9	1	0	0	10
合計	42	15	0	0	57

※達成度：◎達成、○達成への進行度(高)、△達成への進行度(低)、×中止

Ⅱ. 重点施策

1. 建学の精神に基づき、さまざまな領域を積極的に学びバラルーツ教育を展開する体制を構築する。

(1)	新カリキュラムでは生徒が主体となる学びや探究学習を意識し、生徒の自主性とコミュニケーション能力や思考力を高める方向の教育体制を推進します。	達成度	○
-----	---	-----	---

- ・教員研修で探究授業（国語・社会）の実践例を共有しました。
- ・2025年度は、新カリキュラム初年度として、各教科の到達目標と育成したい資質・能力の整理を進めるとともに、生徒主体の学びや探究的な学びを意識した授業計画の確認を行い、新学習指導要領に基づく初年度の展開状況を踏まえ、2026年度高校2年次への展開に向けた準備を進めました。

2. キリスト教教育を根幹に据えた言語教育を充実させ、言語を通して自分と向き合い、他者への理解を深める姿勢を確立する。

(2)	日々の礼拝や講堂礼拝での感話や委員会・集会等での対話を重視することで、互いの価値観の違いを尊重し、安心安全な環境の構築に努めます。	達成度	◎
-----	---	-----	---

- ・キリスト教教育週間で毎日の講堂礼拝を行い、平和について学びました。
- ・生きる上で大切な価値観をテーマに講堂や教室で教員や生徒が様々な感話を行いました。
- ・毎週 English Friday を設けて、英語によるコミュニケーションを取りつつ、相互理解が図れるよう留意しました。

3. 様々な生徒のニーズをサポートするプログラムを行う。

(3)	ステップルームの環境整備（部屋、スタッフのスケジュール作成、利用基準等の検討）に努めます。	達成度	◎
-----	---	-----	---

4月には、ステップルームの運営体制を刷新し、新しい「ステップルーム担任」制度を導入し、利用環境の整備、スタッフ体制の調整、利用基準の明確化を進めることで、支援を必要とする生徒が継続して学べる体制づくりを前進させました。

(4)	ハイフレックス授業の在り方やその他の学びの保証できる仕組みの検討を継続します。	達成度	◎
-----	---	-----	---

ハイフレックス授業、対面授業、オンライン学習、自宅学習など、柔軟な利用形態を整備、一時的な参加も含めた柔軟な運用が可能な体制を構築し、生徒一人ひとりのニーズに合わせた個別サポートを提供しました。

(5)	教師や家族と協力して生徒のウェルビーイングをサポートするSSWの活動を支援する枠組みを継続的に改善します。	達成度	◎
-----	---	-----	---

SSWの活動を軸に、教員・家庭・関係機関が連携する支援体制づくりを進め、附属高との定期的な情報交換、スーパーバイズの実施、教員向けワークの実施を通して、校外とのつながりを生かした課題解決支援を広げました。

4. 探究的な入試問題の導入と受験生増加に向けた入試制度の在り方について研究し、実践する。

(6)	入試委員会等で入試制度についてさらに検討し、教員会議に提案します。	達成度	◎
(7)	受験生を増やす方法、入試日に生徒や保護者を歓迎する対策等について他校の取組みを研究します。		

本校の方向性に合う多様な受験生を受け止める入試の在り方を具体化するため、Shining 入試を継続実施し、より多くの受験生が受けられるようⅠ期入試だけでなくⅡ期入試にも設定しました。

5. 1クラスの生徒定員数の増加によるクラス数の削減、新カリキュラムによる総授業数の削減を行い、経費削減を図る。

(8)	新カリキュラム導入により、クラス構成と時間割を見直し、経営負担を削減します。	達成度	◎
-----	--	-----	---

- ・新カリキュラムの導入に伴い、クラス編成と時間割を見直しました。
- ・Academic コースと Globalist コースのクラスを混合して授業を実施したことで、生徒間の交流が促進されるとともに、授業数と授業時間数を削減しました。
- ・クラス規模の適切性について検討しました。

Ⅲ. 教学

I. 教科教育

1. 国際基準を軸としたグローバル教育を展開し、異文化理解の深化を図る。

(1)	海外入学生、留学生、海外の大学生のインターン、姉妹校の生徒や教員等を積極的に学校に招きます。	達成度	◎
-----	--	-----	---

- ・ミドルベリー大学から、初めての STEAM インターンを受入れました(8週間)。
- ・初めて海外(中国)からの入学生を受入れました。
- ・韓国の高校生とオンラインで2～3回交流した後、学校に来てもらい、日本語・韓国語・英語による交流を行いました。
- ・海外の学校との交換留学先候補校の調査を継続し、ニュージャージー州の女子校との STEAM 連携の可能性について検討を開始しました。



▲STEAM インターン



▲韓国の高校生と交流

(2)	生徒主体の学びを促進するために、ＩＣＴやＡＩを活用してＰＢＬや実験等を通じた実践的な学びの機会を増やします。そのため教員向けのＩＣＴやＡＩの利用の実践を共有します。	達成度	◎
-----	--	-----	---

3. グローバル教育の一環として自国の言語への理解を深めるとともに、アジア圏内の言語（中国語・韓国語）を第二外国語として履修できる体制を構築する。

(3)	After-school Programで韓国語の講座を設けることにより今後の進み方についてさらに具体的に検討していきます。(カリキュラム内実施は2027年度から、放課後は2025年か2026年から実施予定)。	達成度	◎
-----	---	-----	---

4. 新しい学力観の育成として、現在取り組んでいる「商品開発」の継続・発展を図る。

(4)	商品開発の取組みを高校に延長することを検討しながら他のアントレプレナーシップやデザインシンキングに接する機会を検討します。	達成度	◎
-----	---	-----	---

- [illegible]



5. 伝統と特長を活かした魅力あるカリキュラムを作成し、実践する。学面的なカリキュラムと同時に、人間性のカリキュラムを取り入れ、生徒の勉強の力と生きる力を同時に育てていくプログラム作り。

(5)	新カリキュラムの導入に伴い、生徒の主体性をより重視した授業を展開するための準備を行います。通常の授業のみならず、GSやSTEAM教育等を通して、そうした主体性を育む活動を追求します。学問を超える学びを評価する方法について検討します。	達成度	◎
-----	--	-----	---

教科を超える「人としての教育」を整理するために「A Life of Purpose（目標を持った人生を）」の仕組みを導入し、それぞれの学年で行う行事やプログラムを学年の生活目標と学年聖句の二つの柱を利用することにより、行事などの見直しを行いました。

6. 建学の精神に基づき、さまざまな領域を積極的に学びバラルアーツ教育を展開する体制を構築する。

(6)	新カリキュラムでは生徒が主体となる学びや探究学習を意識し、生徒の自主性とコミュニケーション能力や思考力を高める方向の教育体制を推進します。	達成度	○
-----	---	-----	---

- ・教員研修で探究授業（国語・社会）の実践例を共有しました。
- ・2025 年度は、新カリキュラム初年度として、各教科の到達目標と育成したい資質・能力の整理を進めるとともに、生徒主体の学びや探究的な学びを意識した授業計画の確認を行い、新学習指導要領に基づく初年度の展開状況を踏まえ、2026 年度高校2年次への展開に向けた準備を進めました。

7. 姉妹校をはじめとし複数の海外学校との提携を通して女子教育の世界的なネットワークを構築する。

(7)	インターナショナルスクールとの連携プログラムの可能性について検討します。	達成度	◎
-----	--------------------------------------	-----	---

北海道インターナショナルスクールと English Volleyball 等スポーツ交流を実施、International トーナメントに参加し2つのインターナショナルスクールと交流しました。中学1年生は札幌インターナショナルスクールと交流を行いました。



▲高校生が International トーナメントに参加

(8)	海外の中学校・高校との交流の可能性をさらに追求します。	達成度	○
-----	-----------------------------	-----	---

ニュージャージーの女子中高とSTEAMの連携について検討しました。

(9)	カナダ研修のRCA等との交流を検討し、国内のキリスト教同盟行との交流も検討します。	達成度	○
-----	---	-----	---

同盟校の遺愛女子中高と共同の海外研修の実施について検討しました。また、学園内高校間の交流機会を持つことができました。

8. キリスト教教育に基づき、困難や試練の中にあっても平和を築く姿勢を確立する。

(10)	日々の礼拝や講堂礼拝での感話や委員会・集会等での対話を重視することで、互いの価値観の違いを尊重し、安心安全な環境の構築に努めます。	達成度	◎
------	---	-----	---

- ・キリスト教教育週間で毎日の講堂礼拝を行い、平和について学びました。
- ・生きる上で大切な価値観をテーマに講堂や教室で教員や生徒が様々な感話を行いました。
- ・毎週 English Friday を設けて、英語によるコミュニケーションを取りつつ、相互理解が図れるよう留意しました。

9. キリスト教教育を根幹に据えた言語教育を充実させ、言語を通して自分と向き合い、他者への理解を深める姿勢を確立する。

(11)	同盟校等との研修や交流を通じて、より有意義なプログラムの研究と検討を進めます。	達成度	○
------	---	-----	---

礼拝・感話・行事・委員会活動を通して、他者理解と対話を重視する学校文化づくりを進め、A Life of Purpose の全体像を整理し、教育活動との接続を検討しました。

10. 上記目標やスクールポリシー・スクールミッション実現に向けた教員研修を実施し、教員の指導力を向上させる。

(12)	夏と冬の研修会のコンテンツの一部を選択制とし、よりそれぞれの教員の必要に応じた研修とします。教材の研究時間を増やすこと等検討します。	達成度	◎
------	--	-----	---

教員研究日の設定と、A I のレベル別研修を行いました。

(13)	教員ごとの年間目標を設定します。教員一人ひとりの主体的な取り組みによって学校の改善に向けて進みます。	達成度	○
------	--	-----	---

- ・学校全体の年間目標を分掌・学年・教科の総括に位置付けて振り返りを行いました。
- ・教員個人目標の設定と振り返りの仕組みについては、次年度に向けて整理が必要であることが明確になりました。

II. 生活指導

1. 自律した生活習慣を身に付け、自治の精神が根付いた集団作りを行う。

(1)	教員も積極的に自治研修や委員会に参加し、学校全体で自治精神の涵養と活動の推進を図ります。	達成度	◎
-----	--	-----	---

生徒会執行部と学校側の間で複数回の協議を行い、学校の将来について対話する機会を設け、生徒会から校則の見直しに関する提案がされました。

2. 女子単学の環境を活かし、自己を受け入れ挑戦できる土壌を構築する。

(2)	授業での主体的な学びを通して、それぞれの生徒に人間教育プログラムや女子校交流活動への積極的な参加を促します。	達成度	○
-----	--	-----	---

- ・キリスト教教育週間やその他の期間には、生徒たちは自主的なグループを率いて、平和を促進する方法について話し合いました。
- ・GSでは、平和、ジェンダー問題、そして支援を必要とする人々をどのように支援するかについて考えました。

(3)	さまざまな行事への参加を通して主体性や他者との協働性を養う様々な行事を企画し、実施します。	達成度	◎
-----	---	-----	---

国内の女子校や同盟校との交流に加え、ゾンタクラブ、札幌インターナショナルナイト、ウポボイでのウアイヌコロ会議など、さまざまな外部行事に参加し、こうした経験を通して、生徒が女子校で学ぶ意味や自分の将来の在り方を考える機会を広げました。



▲ゾンタクラブ勉強会



▲第2回ウアイヌコロ会議（左：そらさん）



▲二風谷アイヌ文化博物館見学



▲平取町アイヌ工芸伝承館「ウレシパ」
で木彫り体験



▲フードバンク イコロサッポロさんへの贈呈



▲保育園へのクリスマス奉仕活動

3. 様々な生徒のニーズをサポートするプログラムを行う。

(4)	ステップルームの環境整備（部屋、スタッフのスケジュール作成、利用基準等の検討）に努めます。	達成度	◎
-----	---	-----	---

4月には、ステップルームの運営体制を刷新し、新しい「ステップルーム担任」制度を導入し、利用環境の整備、スタッフ体制の調整、利用基準の明確化を進めることで、支援を必要とする生徒が継続して学べる体制づくりを前進させました。

(5)	ハイフレックス授業の在り方やその他の学びの保証できる仕組みの検討を継続します。	達成度	◎
-----	---	-----	---

ハイフレックス授業、対面授業、オンライン学習、自宅学習など、柔軟な利用形態を整備、一時的な参加も含めた柔軟な運用が可能な体制を構築し、生徒一人ひとりのニーズに合わせた個別サポートを提供しました。

(6)	教師や家族と協力して生徒のウェルビーイングをサポートする SSW の活動を支援する枠組みを継続的に改善します。	達成度	◎
-----	---	-----	---

S S Wの活動を軸に、教員・家庭・関係機関が連携する支援体制づくりを進め、附属高との定期的な情報交換、スーパーバイズの実施、教員向けワークの実施を通して、校外とのつながりを生かした課題解決支援を広げました。

4. 新しい学力観を充実させるために、学校規模に見合う部活動体制を構築し、大学との連携を図る。

(7)	生徒向けの After-school Program を立ち上げて、生徒の家族等の講座の可能性について検討します。	達成度	◎
-----	---	-----	---

After-school Program を前期・後期に実施し、生徒の関心や主体性を生かす放課後活動づくりを進めました。

Ⅲ. 進路指導

1. 高大連携授業の内容と成果を検証し、多様な連携の在り方を模索し、学園内進学者の増加を目指す。

(1)	高大連係の新たな可能性に向けて検討を進めていきます。	達成度	◎
-----	----------------------------	-----	---

北星学園大学・同盟校・女子大学等との連携の可能性を探り、生徒にとって実効性のある高大連携プログラムの具体化に向けて準備を進めました。

(2)	同盟の大学等との新たな協力等の形式を検討していきます。	達成度	◎
-----	-----------------------------	-----	---

フェリス女学院大学の協力のもと、教員研修（A I）を実現しました。

(3)	教員も進路先の特色を十分に理解し、生徒の進路決定をよりしっかりと支援します。	達成度	◎
-----	--	-----	---

北星学園大学の新学部について、生徒・教員がともに説明を受ける機会を持ち、生徒の進路選択に向けた理解促進と教員の理解深化の両面で取組みを前進することができました。

2. 海外大学への進学も含め、一人ひとりの生徒が望む多様かつグローバルな進路を実現する指導体制を構築する。

(4)	世界で活躍する卒業生等の話を聞くことができる講演やワークショップを充実させます。	達成度	○
-----	--	-----	---

短期留学でニュージーランドに滞在していた生徒が、現地で生活している卒業生と交流し、海外生活のミニワークショップを行いました。

(5)	外部団体等と連携し、英語力を活かせる大学や海外大学の情報を生徒に提供します。	達成度	◎
-----	--	-----	---

海外大学進学を含むグローバル進路支援を強化するため、国際教育部を新設し、説明会やワークショップの実施に向けた準備を進めました。

(6)	海外大学指定校推薦制度について検討を継続します。	達成度	◎
-----	--------------------------	-----	---

マレーシアの大学から特別推薦枠を得ることができ、台湾の大学についても同様の推薦枠獲得に向けて準備を進め、海外大学進学支援の具体化に向けて前進することができました。

3. 一人ひとりが目指す生き方を体現する進路選択が可能となる進路指導体制を確立する。

(7)	進路説明会や相談会等の実施を通して、より幅広い進路選択を支えます。	達成度	◎
-----	-----------------------------------	-----	---

中学・高校それぞれで進路説明会や進路学習を実施し、卒業生や保護者の協力も得ながら、多様な進路選択を支える機会を広げました。

(8)	スタディサプリ等を活用し、生徒自身の自立した学習を促進します。	達成度	○
-----	---------------------------------	-----	---

スタディサプリの効果的な活用方法を説明する説明会を開催し、自立学習を促すためのサポートを提供しました。スタディサプリに代わるシステムを試験的に導入し、生徒と教職員へのアンケート調査を実施した結果、スタディサプリを継続することを決定しました。

(9)	進路実現に向けて模試や資格検定の機会活用を積極的に促します。	達成度	◎
-----	--------------------------------	-----	---

外部模試や英検・漢検の校内実施を行い、生徒が進路実現に向けて各種試験・検定を活用できる環境を整備しました。

IV. 経営・管理

I. 募集体制と広報

1. 探究的な入試問題の導入と受験生増加に向けた入試制度の在り方について研究し、実践する。

(1)	入試委員会等で入試制度についてさらに検討し、教員会議に提案します。	達成度	◎
(2)	受験生を増やす方法、入試日に生徒や保護者を歓迎する対策等について他校の取組みを研究します。		

本校の方向性に合う多様な受験生を受け止める入試の在り方を具体化するため、Shining入試を継続実施し、より多くの受験生が受けられるようⅠ期入試だけでなくⅡ期入試にも設定しました。

2. 通信制学校の研究と設置に向けた検討を行い、多様な学び方の実践と、生徒数の増加を目指す。

(3)	生徒のニーズに合うサポート制度の関連として通信教育等の可能性について運営会議や生徒支援部で検討します。	達成度	◎
-----	---	-----	---

北海道教育学園の担当者と協議を行い、通信制や協力校としての連携の可能性について検討を進めました。

3. 留学生・帰国子女入学生の積極的な誘致やインターナショナルスクールとの関係構築を図ることで、グローバルな空間を構築する。

(4)	英語版のホームページやSNSの作成について検討を行います。	達成度	○
-----	-------------------------------	-----	---

英語・日本語の両方を用いた情報発信を試行し、学校の国際的な特色を伝える広報の基盤づくりを進めました。

(5)	本校の生徒が留学しなくても様々な人と交流できる場面や活動の可能性について検討し、増やす計画に取組みます。	達成度	◎
-----	--	-----	---

アメリカの高校生の一泊入学体験（学友会と協力）、アメリカ外交官との交流、バレー部の国際トーナメントへの参加等について取組みました。



▲アメリカの高校生が一泊入学体験



▲エルマイラから北星学園と繋がりのある方のお孫さんが来校

(6)	留学した生徒の経験を共有できる機会を設けます。	達成度	◎
-----	-------------------------	-----	---

帰国した留学生による発表や交流会を実施し、留学経験を共有する機会を設けました。

II. 働き方改革

1. 管理職体制の見直しを図り、教育改革と学校運営に対応できるマネジメント体制を整備する。

(1)	新カリキュラムや新体制に合う教頭の役割分担の見直しを行います。	達成度	◎
-----	---------------------------------	-----	---

新カリキュラムや新支援体制に対応するため、教頭の役割分担の見直しを行いました。

2. 教員の働きと役割を整備し、業務内容のスリム化を実現する。

(2)	新分掌体制で業務内容を整理しそれぞれの分担や効率の改善に向けて検討しながら1年目を動き出します。	達成度	○
-----	--	-----	---

新分掌体制のもとで業務内容や役割分担の見直しを始めました。

(3)	新入生からの学年重視の制度を強めながら、旧カリキュラムの科・コース制度の生徒にもこれまでの良さをしっかりと伝え支援します。	達成度	○
-----	---	-----	---

科・コース制度から学年制度に移行し、学年体制のニーズや運営の在り方について検討を始めました。

(4)	学校行事の意義等をA Life of Purposeの枠で再確認しながら、運営等で見直しできないか検証します。	達成度	◎
-----	---	-----	---

A Life of Purposeの仕組みの再確認により、学年行事の見直しを行いました。

Ⅲ. 採用計画

1. 建学の精神を継承しつつ、新しい時代のキリスト教学校を担うに相応しい教員の採用を行う。

(1)	今後の人事計画に合わせて必要な人材のニーズを見極めつつ、情報の収集を進めていきます。	達成度	○
-----	--	-----	---

今後の人事計画に必要な人材像を見極めるため、同盟校等との情報交換を進めました。採用に直結する段階には至りませんでしたが、キリスト教学校ネットワークを通じた情報収集を始めることができました。

2. 学校の適正規模を念頭に置いた人事計画を作成し、適正な人員配置を実現できる体制を構築する。

(2)	学園内の大学や同盟各校との交流を促進し、今後の交流や配置等について検討します。	達成度	○
-----	---	-----	---

学校運営会議が常任理事会と連携し、将来の人事計画、人事の在り方などについて議論し、課題を共有し、共通理解を深めました。

V. 財務

I. 財務運営方針

1. 2030 年に向けて設定した財政運営目標を達成する。

(1)	入学者増に向けて、SNS等を活用した学校の魅力の発信、卒業生のネットワークの活用、他校の事例及び広報活動の研究、ホームページリニューアルによるPR強化等、広報活動を積極的に展開します。	達成度	○
-----	--	-----	---

- ・他校の事例研究や広報活動の調査、ウェブサイトのリニューアル、各種ソーシャルメディアへの投稿などを通じて、本校の魅力を高めるための取組みを進めました。
- ・札幌市内私立中学校主催の「札幌地区私立中学校大文化祭」を本校講堂で開催、札幌市内のホテルで開催された北海道私立私学展への参加、東京での合同説明会への参加など、アウトリーチ活動も拡充しました。



▲札幌地区私立中学校大文化祭

(2)	通信制学校の事例を研究します。	達成度	◎
-----	-----------------	-----	---

北海道教育学園を訪問するとともに同学園からの視察も受入れ、複数回の面談を通じて、協力校となるための協議を進めました。2026 年度後期からは通信教育による単位取得が可能な授業を提供できる予定です。

2.1 クラスの生徒定員数の増加によるクラス数の削減、新カリキュラムによる総授業数の削減を行い、経費削減を図る。

(3)	新カリキュラム導入により、クラス構成と時間割を見直し、経営負担を削減します。	達成度	◎
-----	--	-----	---

- ・新カリキュラムの導入に伴い、クラス編成と時間割を見直しました。
- ・Academic コースと Globalist コースのクラスを混合して授業を実施したことで、生徒間の交流が促進されるとともに、授業数と授業時間数を削減しました。
- ・クラス規模の適切性について検討しました。

3. 奨学金制度に頼らない募集方法を研究し、奨学金の削減を図る。

(4)	奨学金制度や生徒募集とのバランスを考慮しながら検討・実施を継続します。	達成度	◎
-----	-------------------------------------	-----	---

奨学金制度と生徒募集とのバランスを踏まえ、採用基準や金額を見直した結果、大幅に削減することができました。

4. 学園全体の活動を海外在住の卒業生・関係者にもアピールすることで、新しい寄付金募集体制を構築する。

(5)	同窓生のデータベースづくりについて取組みます。同窓生から情報を収集します。	達成度	◎
-----	---------------------------------------	-----	---

寄付募集体制などの基盤整備に向けて、広報部・同窓会・学校運営会議で、収集すべき情報と進め方の方向性を整理しました。

II. 施設・設備

1. 札幌中心部に位置する学校として、校地・施設を地域に開かれたものとして活用する一方、南4条北側校地や盤溪校地の有効活用を図る。

(1)	地域に開かれた学校づくりを放課後活動等で検討します。	達成度	◎
-----	----------------------------	-----	---

- ・After-school Program の地域連携やGSでの地域探究プロジェクトを進め、授業や行事の中で、高齢者、ムスリムの方、子ども食堂、地域清掃活動など、地域や外部との接点を広げました。
- ・GSで地域の探究プロジェクトを行いました。

(2)	百周年記念館の見学開放をより積極的にPRします。	達成度	◎
-----	--------------------------	-----	---

百周年記念館のペーパークラフトや紹介動画を作成し、施設紹介の工夫を進めました。



▲ペーパークラフト

(3)	聖心の校地の実態調査を行います。	達成度	◎
-----	------------------	-----	---

宮の森キャンパスを実地調査し、施設活用の可能性について検討を始め、部活動の合宿利用も行い、実際の活用の可能性を探ることができました。

2. C A L L 教室機器の老朽化に伴い、探究型教育言語教育に有効に活用できる施設を設計する。

(4)	C A L L 教室については協働的学習や個別最適化学習のための場としての活用方法について研究します。	達成度	◎
(5)	English Lounge の活用方法について研究します。		

C A L L 教室の今後の在り方を見直し、S T E A M 活動につながる空間整備の検討を進め、S T E A M ルームの立ち上げや3 D プリンター活用の準備を進めるとともに、補助金・助成金も複数申請しました。

3. スミス寮の国際化についての研究と検討を行う。

(6)	国内の国際寮（中学・高校）等について情報収集を行います。	達成度	◎
-----	------------------------------	-----	---

- ・ミドルベリー大学のS T E A M インターンが寮で8週間生活し、国際的な受入れの実態を通して寮運営や生活支援の課題を具体的に確認することができました。
- ・海外からの入学生受入れに伴う入国手続きやビザ対応の経験も蓄積されました。

以 上